

第九回留学報告書

2024年12月

若原征哉

2020年秋から FOS 奨学生として、アメリカ合衆国ミネソタ州にあるミネソタ大学にて Land and Atmospheric Science program に参加し、精密農業を専攻しています。

1. 学生生活

博士課程 5 年目が始まりました。指導教官との間では、これまでの進捗を基に 2025 年の 12 月を卒業見込み時期とすることで合意しています。通常では博士論文 4 章分の仕事をして卒業ですが、博士論文のストーリーを考えて 6 章分の取り組みをすることになっています。先月に 1 本目の論文が European Journal of Agronomy から出版されました。現在は、2 本目のデータ分析を終え執筆を始めるところです。3 本目、4 本目も学会での発表に向けてある程度進捗ができています。段階なので、来年の上半期終了時までには 4 本分の仕事をあらかじめ終わらせるのが近場での目標になります。大学学部時代での研究経験が殆どない状態で博士課程に加入してから、出版論文を執筆できるようになるまで時間がかかりました。ただ、この 4 年間は船井奨学金やミネソタ大学から頂いた奨学金のおかげで TA などの他の業務に追われることなく、正しい手順で専門知識を蓄え、また学会発表等でそれを実践することに時間を使うことが出来ました。指導教員からも、分野知識に関して信頼を得られているのを感じます。早期卒業することを目的とすれば、4 年から 4 年半ほどでの卒業もあり得たかもしれませんが、自分の中ではこれまでの博士課程の過ごし方が最適だったと思っています。

卒業が迫るにつれて、卒業後の進路についても考えています。アメリカに妻と娘がいるので、アメリカで就職します。指導教官からは、アカデミアの仕事を勧められていて、それに向けた機会も紹介してもらっています。ただ、ワークライフバランスを考えると企業へ就職するほうが自分にあっているかなと思っています。企業就職に向けては、実際に同分野の企業で働いている方（主に博士号所有者）とネットワーキングをしています。就職に向けて必要なスキルや知識などを確認する目的もありますが、ネットワークのおかげで就職が決まりやすくなることが多いので、正直なところそれが狙いです。それと同時に、長期インターンシップを探しています。私の分野では博士課程在籍中にインターンシップをするのは一般的ではないのですが、企業で働いている方々からは採用の際に実務経験を重視することをよく聞きます。今のところ目ぼしいインターンシップ先が幾つかあり、そのうちのひとつとは面接も済ませました。もし採用された際は、1 年ほどの長期インターンになります。パートタイムで働くのか、1 年間

休学をするかなど決まり切っていないことも多いですが、卒業後の就職に向けていろいろと前もって準備していくのは大切だと思っています。

2. 私生活

娘が生後 10 か月になりました。有難いことにすくすく育っています。父親が博士課程を終わらせないといけないことをわかっているのか、今のところお利口さんにして给我しています。最近はつかまり立ちをし始めていて、そろそろ歩き出しそうな兆候を見せています。言葉に関しては未だに目立った進捗はないのですが、昨年の夏季交流会の際に、財団生としてケンブリッジにいる磯部さんからバイリンガル教育の子は発語が遅くなる傾向にあると聞いたので、そんなものだと思って待っています。義母が手伝ってくれているおかげで、子育てと仕事の両立もうまくいっています。ただ、間違いなく以前よりも体調を崩しやすくなっているため、それなりに体に負荷がかかっていることを再確認しています。もうすぐ 30 代に突入するので、まずは自分の体調管理をしなければいけないことを身に染みて感じています。また、1 月中旬から 2 月の中旬まで妻と娘を連れて一時帰国します。娘の初めての日本訪問で、2 月 10 日は娘の誕生日でもあるので楽しみにしています。日本にいる両親や親戚と娘を合わすことができるのも楽しみです。言語も然り、文化や家族の面でも日米両側面を学ぶことができる機会を提供してあげたいので、1 年に 1 度は日本に帰るようにしていきたいです。

父親になって、いろいろと責任も増えましたが、妻の理解もありサッカーはプレーヤーとしてもコーチとしても続けています。今年も、大学のサッカー部に同行し、チームもいい成績を残しました。ただ、妻が第二児を妊娠していることから体調不良な時期があり、昨年までのようにシーズン終了までチームに同行することはできませんでした。そして、今年が大学サッカー部に同行する最後の年になりそうです。インターンシップの有無によってはコーチの仕事を予定よりも早めに辞めなければいけない可能性もあります。こうして、改めて自分の人生のステージが進んだことを実感していますが、そんな中でも家族第一は前提として、やりたいことをやれるようにうまく時間を使っていきたいと思います。...かなり何事もなく書きましたが、来年の 6 月末に第二児（男の子）が生まれる予定です。今は、妻の悪阻が辛い時期なので、妻のサポート、娘のお世話、仕事、運動と忙しい毎日を送っています。まずは、日本に帰国するまでに妻の悪阻が良くなること、そして順調にその後の妊娠が進むことを祈っています。子宝に恵まれ、自分の両親が作った 4 人家族と同じサイズの家族が自分にできるのが、なんだか感慨深いです。父親として、妻と子供たちが頼れる存在になれるように日々努力して過ごしていきたいと思います。



家族写真



大学サッカー部